

調査計画

1 調査の名称（☐特定一般統計調査 ☒その他の一般統計調査）

こども・若者の意識と生活に関する調査

2 調査の目的

「子ども・若者育成支援推進法」（平成21年法律第71号）に基づく「子供・若者育成支援推進大綱」（令和3年4月6日子ども・若者育成支援推進本部決定）では、国、地方公共団体等による子供・若者育成支援や、家庭、学校、地域等における子供・若者の育成に資するため、子供・若者やその家族、支援者、支援施策等の現状・課題等に関し、調査研究を推進することとされている。

本調査は、子供・若者世代における自己肯定感や居場所に関する認識などの意識面に加え、ひきこもり等の行動面を総合的に調査・分析することにより、子供・若者を取り巻く諸課題や抱える困難、支援に対するニーズを把握することで、今後の施策の企画立案に資する資料を得ることを目的とする。また、特に、ひきこもり等の行動面については、中高年世代（40～60代）に対しても、子供・若者世代の対照群として同様の調査を実施し、それらの結果を多角的に分析する。

3 調査対象の範囲

（1）地域的範囲（☒全国 ☐その他）

（2）属性的範囲（☒個人 ☐世帯 ☐事業所 ☐企業・法人・団体 ☐地方公共団体 ☐その他）

【10歳～14歳用】令和4年4月1日現在で、満10歳から満14歳の者

【15歳～39歳用】令和4年4月1日現在で、満15歳から満39歳の者

【40歳～69歳用】令和4年4月1日現在で、満40歳から満69歳の者

4 報告を求める個人又は法人その他の団体

（1）報告者数

満10歳から満39歳の男女20,000人（母集団の大きさ：約3,730万人）

満40歳から満69歳の男女10,000人（母集団の大きさ：約5,000万人）

（2）報告者の選定方法（☐全数 ☒無作為抽出（☐全数階層あり） ☐有意抽出）

地域及び都市規模を層化基準とした層化二段階無作為抽出法により選定する（調査地点における報告者の抽出は、住民基本台帳より等間隔抽出法によって行う）。

(標本設計について、別添 1 を参照)

5 報告を求める事項及びその基準となる期日又は期間

(1) 報告を求める事項

【10歳～14歳用】 (詳細は調査事項一覧を参照)

- ①基本的属性
- ②普段の活動
- ③外出状況等
- ④困難に直面した経験・改善

【15歳～39歳用】 (詳細は調査事項一覧を参照)

- ①基本的属性
- ②普段の活動
- ③外出状況等
- ④困難に直面した経験・改善

【40歳～69歳用】 (詳細は調査事項一覧を参照)

- ①基本的属性
- ②普段の活動
- ③外出状況等
- ④困難に直面した経験・改善

[集計しない事項の有無] ☒無 ☐有

(2) 基準となる期日又は期間

調査の実施期間において報告者が報告を求められた時点現在。ただし、基本的属性のうち年齢については、令和4年4月1日現在。

6 報告を求めるために用いる方法

(1) 調査系統

内閣府－民間事業者－報告者

(2) 調査方法

☒郵送調査 ☒オンライン調査（☐政府統計共同利用システム ☒独自のシステム ☐電子メール）
☐調査員調査 ☐その他（ ）

〔調査方法の概要〕

- ・内閣府から調査事務を受託した民間事業者が、報告者に対して調査票及びオンライン調査回答用のID・パスワードを記載した調査協力依頼を郵送により配布する。
- ・報告者は、郵送された調査票に記入し、郵送提出又はWebフォームにID・パスワードを入力し、オンラインにより回答する。
- ・民間事業者は、調査票の配布・回収のほか、督促、審査等を行う。

7 報告を求める期間

（1）調査の周期

☐1回限り ☐毎月 ☐四半期 ☐1年 ☐2年 ☒3年 ☐5年 ☐不定期 ☐その他（ ）
（1年を超える場合又は不定期の場合の直近の実施年： 年）

（2）調査の実施期間又は調査票の提出期限

令和4年11月上旬～下旬

8 集計事項

別添2「集計事項一覧」のとおり

9 調査結果の公表の方法及び期日

（1）公表・非公表の別（☒全部公表 ☐一部非公表 ☐全部非公表）

（2）公表の方法（☒e-Stat ☐インターネット（e-Stat以外） ☐印刷物 ☐閲覧）

（3）公表の期日

令和5年3月までに公表を行う。

10 使用する統計基準

☐使用する→☐日本標準産業分類 ☐日本標準職業分類 ☐その他（ ）

☒使用しない

本調査は、満10歳から満69歳の個人を対象とした調査であり、調査対象の範囲の画定及び集計結果の表示に、統計基準を用いる余地がないことから、いずれの統計基準も使用しない。

11 調査票情報の保存期間及び保存責任者

(1) 調査票情報の保存期間

- ・記入済み調査票：1年
- ・調査票の内容を記録した電磁的記録媒体：永年

(2) 保存責任者

内閣府政策統括官（政策調整担当）付参事官（青少年支援担当）

こども・若者の意識と生活に関する調査の標本設計について

標本設計の考え方

本調査においては、住民基本台帳を母集団として、地域、都市規模の区分別に層化し、無作為抽出を行う。詳細は以下のとおり。

1 母集団及び抽出方法

住民基本台帳を母集団とし、抽出は層化二段無作為抽出法による。(調査地点における報告者の抽出は住民基本台帳より等間隔抽出法により行う。)

2 調査対象者及び標本誤差・目標精度

①調査対象者

令和4年4月1日現在で、

全国の10～39歳の男女(以下、「子供・若者」という。) 20,000人

全国の40～69歳の男女(以下、「対照群」という。) 10,000人

②標本誤差(信頼水準 95%)、目標精度

30年中高年調査では、ひきこもりの者の回答数が47、標本誤差は最大で20.2%(回答比率50%、層化二段抽出の倍率(≒1.41倍)を乗じた場合)という結果となり、精度や信頼性の向上が課題となっている。このため、本調査では、子供・若者については、標本誤差(最大)を10%程度に、また、「対照群」については、子供・若者で見込まれる標本誤差と、30年中高年調査時のものと中間に当たる、15%程度に抑えることを目安とする。

[ひきこもりの者の出現率]

本調査は、子供・若者世代一般の意識の把握という目的とあわせて、「ひきこもりの状態にある者」(以下、「ひきこもりの者」という。)の実態把握を目的としているが、過去の調査におけるひきこもりの者の出現率は、下記のとおりであり、極めて限られたものとなっている。このため、本調査における標本誤差等の試算等に際しては、このことを第1に考慮する必要がある。

①平成27年度に内閣府で実施した、ひきこもりの者に関する類似の調査(調査名:若者の生活に関する調査。対象は15～39歳の男女。以下、「27年子供・若者調査」という。)において、ひきこもりの者の出現率は1.57%であった。

②また、平成30年度の40～64歳の男女を対象とした調査(調査名:生活状況に関する調査。以下、「30年中高年調査」という。)では、ひきこもりの者の出現率は1.45%であった。

本調査では上記①②を踏まえ、子供・若者で1.57%、対照群で1.45%の出現率を見込んでいる。

[有効回答率]

本調査は、郵送調査であることなどを踏まえ、50%程度の有効回答率を想定している(子供・若者及び対照群のいずれも同率を想定)。

[標本誤差等の試算]

上記の出現率及び有効回答率に基づき試算すると、本調査におけるひきこもりの者の回答者数(n)は、子供・若者では157人、対照群では72人程度と推察される。

さらに、95%の信頼水準とし、単純無作為抽出を行う場合の標本誤差を求めると、誤差が最も大きくなる回答比率(50%)において、子供・若者では7.8%、対照群では11.5%との試算結果が得られる。(層化二段無作為抽出法であることを考慮した場合の標本誤差は、子供・若者で11.0%、対照群で16.3%)(表1参照)。

これらの試算結果について、対照群の誤差率は一般的に見て高い状況にはあるが、①本調査の主題は「こども・若者の意識と生活」であり、子供・若者世代についてより精度の高い調査・分析を行う必要があること、②「30 年中高年調査」では、標本誤差 19.3%と、更に高い試算(実績ベースでは上述のとおり 20.2%)において実施していること等を踏まえれば、許容の範囲内にあるものとする。

(表1)標本の大きさ 20,000(子供・若者)、10,000(対照群)の場合の標本誤差
(※有効回答率 50%を想定)

【子供・若者】

標本誤差(信頼度 95%)

						(参考)層化二段抽出の倍率(1.41 倍)を乗じた場合
ひきこもりの者 (n)	10% (または 90%)	20% (または 80%)	30% (または 70%)	40% (または 60%)	50%	50%
157(人)	4.7%	6.3%	7.2%	7.7%	7.8%	11.0%

【対照群】

標本誤差(信頼度 95%)

						(参考)層化二段抽出の倍率(1.41 倍)を乗じた場合
ひきこもりの者 (n)	10% (または 90%)	20% (または 80%)	30% (または 70%)	40% (または 60%)	50%	50%
72(人)	6.9%	9.2%	10.6%	11.3%	11.5%	16.3%

計算式

b = 標本誤差 (単純無作為抽出の場合)	n = 比率算出の基数 (サンプル数)
N = 母集団の大きさ	p = 回答の比率
$b = 1.96 \cdot \sqrt{(N-n) / (N-1) \cdot p(1-p) / n}$	
$(N-n) / (N-1) \div 1$	

3 標本抽出

本調査は下記の方法で層化二段無作為抽出を行う。

調査対象数:①10～39 歳の男女(子供・若者)20,000 人

②40～69 歳の男女(対照群) 10,000 人

地点数:①子供・若者 300 地点 ②対照群 200 地点

1 地点の調査対象数:①子供・若者 66～67 人 ②対照群 50 人

① 層の設定

全国を「地域」と「都市規模」により 65 層(11 地域×4人口区分+21 大都市)に層化する。

＊ 地域は、都道府県を単位として 11 区分に分類

＊ ＊ 都市規模は、大都市(東京都区部及び政令指定都市)、人口 20 万人以上の市、人口 10 万人以上の市、10 万人未満の市、郡部(町村)の5区分に分類

(注)都市は令和4年1月1日現在市制施行の地域による。

〔地域区分〕

全国の都道府県を単位として、次の 11 区分に分類。

北海道(1道)	北海道
東北(6県)	青森県、岩手県、宮城県、秋田県、山形県、福島県
関東(1都6県)	茨城県、栃木県、群馬県、埼玉県、千葉県、東京都、神奈川県
北陸(4県)	新潟県、富山県、石川県、福井県
東山(3県)	山梨県、長野県、岐阜県
東海(3県)	静岡県、愛知県、三重県
近畿(2府4県)	滋賀県、京都府、大阪府、兵庫県、奈良県、和歌山県
中国(5県)	鳥取県、島根県、岡山県、広島県、山口県
四国(4県)	徳島県、香川県、愛媛県、高知県
北九州(4県)	福岡県、佐賀県、長崎県、大分県
南九州(4県)	熊本県、宮崎県、鹿児島県、沖縄県

〔都市規模区分〕

i) 東京都 23 区・政令指定都市
ii) 人口 20 万人以上の市
iii) 人口 10 万人以上の市
iv) 人口 10 万人未満の市
v) 郡部(町村)

② 調査地点数の配分

1) 子供・若者

地区・都市規模別各層における母集団の大きさ(令和3年1月1日現在の住民基本台帳の 10 歳から 39 歳までの人口)により 300 地点を比例配分する。調査対象数が 20,000 であることから、各調査地点の調査対象数を 66～67 と設定。

2) 対照群

地区・都市規模別各層における母集団の大きさ(令和3年1月1日現在の住民基本台帳の 40 歳から 69 歳までの人口)により 200 地点を比例配分する。調査対象数が 10,000 であることから、各調査地点の調査対象数を 50 と設定。

③ 具体的な抽出方法

(1) 第1次抽出単位となる調査地点として、平成 27 年国勢調査時に設定された調査区を使用する。

(2) 調査地点(調査区)の抽出は、調査地点数が2地点以上割り当てられた層については、

$$\text{抽出間隔} = \frac{\text{層における国勢調査時の当該母集団人口(計)}}{\text{層で算出された調査地点数}}$$

を算出し、等間隔抽出法によって抽出する。また、層内での調査地点数が1地点の場合には、乱数表により無作為に抽出する。

(3) 抽出に際しての各層内における市区町村の配列順序は、平成 27 年国勢調査時の市区町村コードに従う。

(4) 調査地点における対象者の抽出は、調査地点の範囲内(町・丁目・番地等を指定)で標本となる対象者が抽出できるように、

$$\text{抽出間隔} = \frac{\text{調査地点における国勢調査時の当該母集団人口}}{\text{調査地点抽出調査対象数(子供・若者:66~67 人、対照群:50 人)}}$$

をそれぞれ算出し、住民基本台帳より等間隔抽出法によって抽出する。なお、1調査区で子供・若者を 66~67 名、対照群を 50 名 を抽出しきれない場合は、隣接する調査区にわたって抽出を行う。

別添 2

集計事項一覧（①10～14歳）

	▽基本的属性				▽人生観・幸福感・居場所・孤独感				▽他者との関わり方		
	表1	表2	表3	表4	表5	表6	表7	表8	表9	表10	表11
	・性別 (F1)	・年齢 (F2)	・同居者の続柄 (F3)	・在学学校 (F4)	・自己認識 (問1)	・幸福感 (問2)	・居場所 (問3)	・孤独感① (問4-1)	・孤独感② (問4-2)	・家族・親族との関わり方 (問5)	・学校で出会った友人との関わり方 (問6)
外出頻度等別*	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
性別		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
年齢別	○		○	○	○	○	○	○	○	○	○
都市規模別	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
地域別	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
同居者の続柄	○	○		○	○	○	○	○	○	○	○
在学学校別	○	○	○		○	○	○	○	○	○	○

* 外出頻度の低い子ども群・外出頻度の低い子ども群以外の一般群

別添 2

	▽社会参加・将来像						▽普段の活動	▽外出状況等			
	表12	表13	表14	表15	表16	表17	表18	表19	表20	表21	表22
	・地域の人との関わり方(問7)	・インターネット上での人との関わり方(問8)	・他者と付き合う際の関係(問9)	・社会貢献への意欲(問10)	・将来への希望(問11)	・将来の自己像(問12)	・自宅での活動内容(問13)	・外出頻度(問14)	・現在の外出頻度になってからの期間(問15)	・現在の外出頻度になった年齢(問16)	・現在の外出頻度になった理由(問17-1)
外出頻度等別*	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
性別	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
年齢別	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
都市規模別	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
地域別	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
同居者の続柄	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
在学学校別	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○

別添 2

▽困難に直面した経験・改善

▽相談・支援

	表23	表24	表25	表26	表27	表28	表29	表30
	・現在の外出頻度になった最も大きな理由(問17-2)	・家族以外との会話の状況(問18)	・困難に直面した経験(問19)	・困難な状態が改善した経験(問20)	・困難な状態が改善したきっかけ(問21)	・相談先に求めること(問22)	・相談をしたくない理由(問23)	・相談・支援機関の認知度(問24)
外出頻度等別*	○	○	○	○	○	○	○	○
性別	○	○	○	○	○	○	○	○
年齢別	○	○	○	○	○	○	○	○
都市規模別	○	○	○	○	○	○	○	○
地域別	○	○	○	○	○	○	○	○
同居者の続柄	○	○	○	○	○	○	○	○
在学学校別	○	○	○	○	○	○	○	○

別添 2

集計事項一覧（②15～39歳）

▽基本的属性

	表1	表2	表3	表4	表5	表6	表7	表8	表9	表10
	・性別 (F1)	・年齢 (F2)	・婚姻状況 (F3)	・同居者の 続柄 (F4)	・生計を立て ている人の 続柄 (F5-(1))	・生計を立て ている人の 主な収入 源 (F5-(2))	・家の暮らし 向き (F6)	・最終学歴 (F7)	・現在の仕 事 (F8)	・就業経験 (F9)
ひきこもり類型別*	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
性別		○	○	○	○	○	○	○	○	○
年齢別	○		○	○	○	○	○	○	○	○
都市規模別	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
地域別	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
婚姻状況別	○	○		○	○	○	○	○	○	○
同居者の続柄別	○	○	○		○	○	○	○	○	○
生計を立てている人の続柄別	○	○	○	○		○	○	○	○	○
生計を立てている人の主な収入源別	○	○	○	○	○		○	○	○	○
家の暮らし向き別	○	○	○	○	○	○		○	○	○
最終学歴別	○	○	○	○	○	○	○		○	○
現在の仕事別	○	○	○	○	○	○	○	○		○
就業経験別	○	○	○	○	○	○	○	○	○	

* 広義のひきこもり群・広義のひきこもり群以外の一般群

別添 2

▽人生観・幸福感・居場所・孤独感

▽他者との関わり方

	表11	表12	表13	表14	表15	表16	表17	表18	表19	表20	表21
	・自己認識 (問1)	・幸福感 (問2)	・居場所 (問3)	・孤独感① (問4-1)	・孤独感② (問4-2)	・家族・親 族との関 わり方(問 5)	・学校で出 会った友 人との関 わり方(問 6)	・職場・ア ルバイト関 係の人と の関わり方 (問7)	・地域の人 との関わり 方(問8)	・インター ネット上で の人との 関わり方 (問9)	・他者と付 き合う際の 関係(問 10)
ひきこもり類型別*	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
性別	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
年齢別	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
都市規模別	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
地域別	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
婚姻状況別	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
同居者の続柄別	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
生計を立てている人の続柄別	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
生計を立てている人の主な収入源別	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
家の暮らし向き別	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
最終学歴別	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
現在の仕事別	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
就業経験別	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○

別添 2

	▽社会参加・将来像			▽普段の活動	▽外出状況等					
	表22	表23	表24	表25	表26	表27	表28	表29	表30	表31
	・社会貢献への意欲 (問11)	・将来への希望(問12)	・20年後の自己像(問13)	・自宅での活動内容(問14)	・外出頻度(問15)	・現在の外出頻度になってからの期間(問16)	・現在の外出頻度になった年齢(問17)	・現在の外出頻度になった理由(問18-1)	・現在の外出頻度になった最も大きな理由(問18-2)	・家族以外との会話の状況(問19)
ひきこもり類型別*	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
性別	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
年齢別	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
都市規模別	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
地域別	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
婚姻状況別	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
同居者の続柄別	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
生計を立てている人の続柄別	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
生計を立てている人の主な収入源別	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
家の暮らし向き別	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
最終学歴別	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
現在の仕事別	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
就業経験別	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○

別添 2

	▽困難に直面した経験・改善				▽相談・支援				
	表32	表33	表34	表35	表36	表37	表38	表39	表40
	・困難に直面した経験(問20)	・困難を経験した主な原因(問21(1)～(4))	・困難な状態が改善した経験(問22)	・困難な状態が改善したきっかけ(問23)	・相談したいと思う人や場所(問24)	・相談したくない理由(問25)	・子供・若者を対象とした育成支援機関の認知(問26)	・子供・若者を対象とした育成支援機関の利用経験の有無(問27)	・子供・若者を対象とした育成支援機関の利用意向(問28)
ひきこもり類型別*	○	○	○	○	○	○	○	○	○
性別	○	○	○	○	○	○	○	○	○
年齢別	○	○	○	○	○	○	○	○	○
都市規模別	○	○	○	○	○	○	○	○	○
地域別	○	○	○	○	○	○	○	○	○
婚姻状況別	○	○	○	○	○	○	○	○	○
同居者の続柄別	○	○	○	○	○	○	○	○	○
生計を立てている人の続柄別	○	○	○	○	○	○	○	○	○
生計を立てている人の主な収入源別	○	○	○	○	○	○	○	○	○
家の暮らし向き別	○	○	○	○	○	○	○	○	○
最終学歴別	○	○	○	○	○	○	○	○	○
現在の仕事別	○	○	○	○	○	○	○	○	○
就業経験別	○	○	○	○	○	○	○	○	○

別添 2

集計事項一覧 (③40～69歳)

▽基本的属性

	表1	表2	表3	表4	表5	表6	表7	表8	表9	表10
	・性別 (F1)	・年齢 (F2)	・婚姻状 況 (F3)	・同居者の 続柄 (F4)	・生計を立 てている 人の続柄 (F5-(1))	・生計を立 てている 人の主な 収入源 (F5-(2))	・家の暮ら し向き (F6)	・最終学 歴 (F7)	・現在の仕 事 (F8)	・就業経 験 (F9)
ひきこもり類型別*	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
性別		○	○	○	○	○	○	○	○	○
年齢別	○		○	○	○	○	○	○	○	○
都市規模別	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
地域別	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
婚姻状況別	○	○		○	○	○	○	○	○	○
同居者の続柄別	○	○	○		○	○	○	○	○	○
生計を立てている人の続柄別	○	○	○	○		○	○	○	○	○
生計を立てている人の主な収入源別	○	○	○	○	○		○	○	○	○
家の暮らし向き別	○	○	○	○	○	○		○	○	○
最終学歴別	○	○	○	○	○	○	○		○	○
現在の仕事別	○	○	○	○	○	○	○	○		○
就業経験別	○	○	○	○	○	○	○	○	○	

* 広義のひきこもり群・広義のひきこもり群以外の一般群

別添 2

	▽普段の活動		▽外出状況等		▽困難に直面した経験・改善						
	表11	表12	表13	表14	表15	表16	表17	表18	表19	表20	表21
	・自宅での活動 内容(問14)	・外出頻 度(問15)	・現在の外 出頻度にな ってから の期間(問 16)	・現在の外 出頻度にな った年 齢(問17)	・現在の外 出頻度にな った理 由(問18- 1)	・現在の外 出頻度にな った最も 大きな理 由(問18- 2)	・家族以 外との会 話の状況 (問19)	・困難に直 面した経 験(問20)	・困難を経 験した主 な原因(問 21(1)～ (4))	・困難な状 態が改善 した経験 (問22)	・困難な状 態が改善 したきっか け(問23)
ひきこもり類型別*	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
性別	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
年齢別	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
都市規模別	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
地域別	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
婚姻状況別	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
同居者の続柄別	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
生計を立てている人の続柄別	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
生計を立てている人の主な収入源別	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
家の暮らし向き別	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
最終学歴別	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
現在の仕事別	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
就業経験別	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○

別添 2

▽相談・支援

	表22	表23	表24	表25	表26
	・相談したいと思う人や場所 (問24)	・相談したくない理由 (問25)	・子供・若者を対象とした育成支援機関の認知 (問26)	・子供・若者を対象とした育成支援機関の利用経験の有無 (問27)	・子供・若者を対象とした育成支援機関の利用意向 (問28)
ひきこもり類型別*	○	○	○	○	○
性別	○	○	○	○	○
年齢別	○	○	○	○	○
都市規模別	○	○	○	○	○
地域別	○	○	○	○	○
婚姻状況別	○	○	○	○	○
同居者の続柄別	○	○	○	○	○
生計を立てている人の続柄別	○	○	○	○	○
生計を立てている人の主な収入源別	○	○	○	○	○
家の暮らし向き別	○	○	○	○	○
最終学歴別	○	○	○	○	○
現在の仕事別	○	○	○	○	○
就業経験別	○	○	○	○	○

こども・若者の意識と生活に関する調査

○こども・若者の意識と生活に関する調査

年度	調査票種別	有効回収数	オンライン	郵送回収	備考
令和4年度	10～14歳用	54.0% 1,520人	18.0% 505人	36.1% 1,015人	s=2,813
	15～39歳用	40.9% 7,035人	21.9% 3,771人	19.0% 3,264人	s=17,187
	40～69歳用	52.1% 5,214人	15.1% 1,506人	37.1% 3,708人	

サンプル数

10～39歳：20,000人

40～64歳：10,000人

(調査事項)

【10 歳～14 歳用】

- ・ 性別 (F1)
- ・ 年齢 (F2)
- ・ 同居者の続柄 (F3)
- ・ 在学学校 (F4)
- ・ 自己認識 (問 1)
- ・ 幸福感 (問 2)
- ・ 居場所 (問 3)
- ・ 孤独感① (問 4-1)
- ・ 孤独感② (問 4-2)
- ・ 家族・親族との関わり方 (問 5)
- ・ 学校で出会った友人との関わり方 (問 6)
- ・ 地域の人との関わり方 (問 7)
- ・ インターネット上での人との関わり方 (問 8)
- ・ 他者と付き合う際の関係 (問 9)
- ・ 社会貢献への意欲 (問 10)
- ・ 将来への希望 (問 11)
- ・ 将来の自己像 (問 12)
- ・ 自宅での活動内容 (問 13)
- ・ 外出頻度 (問 14)
- ・ 現在の外出頻度になってからの期間 (問 15)
- ・ 現在の外出頻度になった年齢 (問 16)
- ・ 現在の外出頻度になった理由 (問 17-1)
- ・ 現在の外出頻度になった最も大きな理由 (問 17-2)
- ・ 家族以外との会話の状況 (問 18)
- ・ 困難に直面した経験 (問 19)
- ・ 困難な状態が改善した経験 (問 20)
- ・ 困難な状態が改善したきっかけ (問 21)
- ・ 相談先に求めること (問 22)
- ・ 相談をしたくない理由 (問 23)
- ・ 相談・支援機関の認知度 (問 24)

【15 歳～39 歳用】

- ・ 性別 (F1)
- ・ 年齢 (F2)
- ・ 婚姻状況 (F3)
- ・ 同居者の続柄 (F4)
- ・ 生計を立てている人の続柄 (F5-(1))
- ・ 生計を立てている人の主な収入源 (F5-(2))
- ・ 家の暮らし向き (F6)
- ・ 最終学歴 (F7)
- ・ 現在の仕事 (F8)
- ・ 就業経験 (F9)
- ・ 自己認識 (問 1)
- ・ 幸福感 (問 2)
- ・ 居場所 (問 3)
- ・ 孤独感① (問 4-1)
- ・ 孤独感② (問 4-2)
- ・ 家族・親族との関わり方 (問 5)
- ・ 学校で出会った友人との関わり方 (問 6)
- ・ 職場・アルバイト関係の人との関わり方 (問 7)
- ・ 地域の人との関わり方 (問 8)
- ・ インターネット上での人との関わり方 (問 9)
- ・ 他者と付き合う際の関係 (問 10)
- ・ 社会貢献への意欲 (問 11)
- ・ 将来への希望 (問 12)
- ・ 20 年後の自己像 (問 13)
- ・ 自宅での活動内容 (問 14)
- ・ 外出頻度 (問 15)
- ・ 現在の外出頻度になってからの期間 (問 16)
- ・ 現在の外出頻度になった年齢 (問 17)
- ・ 現在の外出頻度になった理由 (問 18-1)
- ・ 現在の外出頻度になった最も大きな理由 (問 18-2)
- ・ 家族以外との会話の状況 (問 19)
- ・ 困難に直面した経験 (問 20)
- ・ 困難を経験した主な原因 (問 21 (1)～(4))
- ・ 困難な状態が改善した経験 (問 22)
- ・ 困難な状態が改善したきっかけ (問 23)

- ・相談したいと思う人や場所（問 24）
- ・相談したくない理由（問 25）
- ・子供・若者を対象とした育成支援機関の認知（問 26）
- ・子供・若者を対象とした育成支援機関の利用経験の有無（問 27）
- ・子供・若者を対象とした育成支援機関の利用意向（問 28）

【40 歳～69 歳用】

- ・性別（F1）
- ・年齢（F2）
- ・婚姻状況（F3）
- ・同居者の続柄（F4）
- ・生計を立てている人の続柄（F5-(1)）
- ・生計を立てている人の主な収入源（F5-(2)）
- ・家の暮らし向き（F6）
- ・最終学歴（F7）
- ・現在の仕事（F8）
- ・就業経験（F9）
- ・自宅での活動内容（問 14）
- ・外出頻度（問 15）
- ・現在の外出頻度になってからの期間（問 16）
- ・現在の外出頻度になった年齢（問 17）
- ・現在の外出頻度になった理由（問 18-1）
- ・現在の外出頻度になった最も大きな理由（問 18-2）
- ・家族以外との会話の状況（問 19）
- ・困難に直面した経験（問 20）
- ・困難を経験した主な原因（問 21(1)～(4)）
- ・困難な状態が改善した経験（問 22）
- ・困難な状態が改善したきっかけ（問 23）
- ・相談したいと思う人や場所（問 24）
- ・相談したくない理由（問 25）
- ・子供・若者を対象とした育成支援機関の認知（問 26）
- ・子供・若者を対象とした育成支援機関の利用経験の有無（問 27）
- ・子供・若者を対象とした育成支援機関の利用意向（問 28）

復元推計の方法

集計結果は回答の単純積算であり、推計は加えていない。